

## はじめに：貨幣の道 一五つの出来事一

さて、下限を紀元 7-8 世紀頃までとして、シルクロードの貨幣を俯瞰すると、そこに第一より第三の出来事を見て取ることができる。さらにそれ以後には第四と第五が起こった。

第一はギリシアの貨幣様式とギリシア文字銘文の東漸

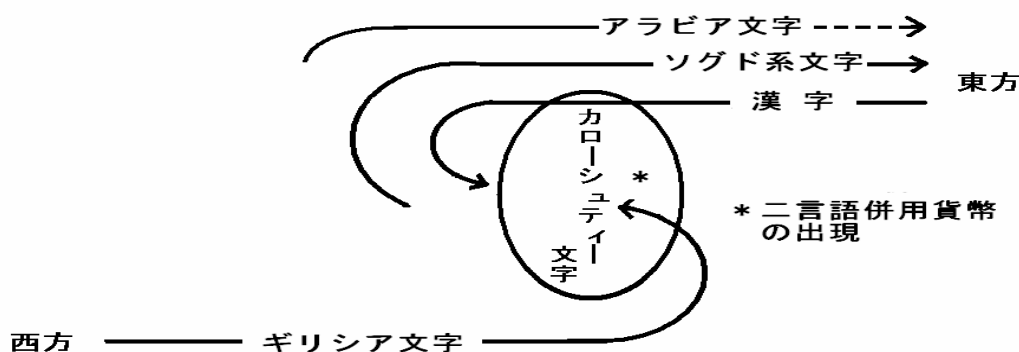
第二は二言語併用貨幣の出現と伝播

第三は中国の貨幣様式と漢字銘文の西漸

第四はソグド系文字銘文の東漸

第五はアラビア文字銘文の東漸

この五つの問題につき、貨幣銘文に使用された文字に着目して模式図を描くと次のようになる<sup>1</sup>。この模式図は貨幣の様式と銘文の文字によって描いたものにすぎないが、東西の文化の交流がどのようになされたかという一般的な型とも重なり合う部分がある。



■この模式図は貨幣の実例によって組み立てたものであるが、ここで確認しておきたいことがある。

“材料を集めて組み立てる”、“材料自体の信頼性を保持する”、この二つは人の営為の基本であろう。学問も同様である。とくに材料の質に対する絶えざる反省は学問の核心である。その意味で、ここに示した模式図は“まがい物”にすぎない。材料として利用した貨幣の位置付け、即ち何時・どこで・誰が発行したのかということ及び図像の解釈につき、これまでの一般的な説に拠らざるを得なかったからである。しかしながら、そのようなものであっても、作業用の仮説として今後の研究のために利用し得るならば、それもよいのではないかと考えた次第である。

<sup>1</sup> 第一より第三の出来事については吉池 2009 で述べた模式図も提示した。これに加筆修正したものが今回提示した模式図である。

【参考文献（発行年順）】

吉池孝一 2009. 「貨幣の道」, 『KOTONOHA』古代文字資料館発行(愛知県立大学 E511 内)第 79 号, 12-16 頁。

(文責: 吉池孝一 2010. 3. 16)